

 シラバス参照

## 授業基本情報

講義番号	076050
授業科目	口腔内科学
担当教員（所属）	高柴 正悟 (07：歯学部)
学期	2017年度 Q：1学期
曜日・時限	木曜3, 木曜4
単位数	1
教室	第二示説室
ナンバリングコード	NDGI0DEDZ4002N
印刷用ページ	<a href="https://gs.okayama-u.ac.jp/campusweb/campussquare.do?_flowId=SYW4101101-flow&amp;nendo=2017&amp;shozoku=07&amp;jikanwari=6050&amp;sylocale=ja_JP">https://gs.okayama-u.ac.jp/campusweb/campussquare.do?_flowId=SYW4101101-flow&amp;nendo=2017&amp;shozoku=07&amp;jikanwari=6050&amp;sylocale=ja_JP</a>
科目区分	専門科目
対象学生	5
必修・選択の別	必修
連絡先	(内線) 6675/stakashi@okayama-u.ac.jp
オフィスアワー	全体に関しては、火曜日17:00～、木曜日8:30～10:00（ともに、歯学部棟7F 歯周病態学分野） ★事前の連絡を、高柴まで本学のe-mail addressを用いて、行うこと（携帯メールは対応できない場合があります）。 各講義に関しては、各講義担当者へ確認必要。
学部・研究科独自の項目	A-1 患者の尊厳 A-3 歯科医師の責務 A-5 歯科医療における安全性への配慮と危機管理 A-5-1) 安全性の確保 B-3 予防と健康管理 B -3-2) 口腔疾患の予防と健康管理 C -4 病因と病態 E -3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-4 歯科医療の展開 E -4-6) 歯科医師に必要な医学的知識
使用言語	日本語
授業の概要	口腔科学と全身の科学との関係を、主に感染症、慢性炎症、および免疫疾患の観点から概説する。「口腔内科」の発展的・学際的な考え方を理解させるとともに“個体医療”の概念を教示する。
学習目的	一般目標（GIO）： 種々の疾患は個体毎に異なる病態を持つことを診断して治療・管理を行う，すなわち，“個体医療”の概念に基づいて治療を実践するために，口腔科学と全身の科学との関係を，主に感染症，慢性炎症，および免疫疾患の観点から捉え，“口腔内科”の発展的・学際的な考え方を理解する。
到達目標	行動目標（SBOs）： 1. 辺縁性歯周疾患と根尖性歯周疾患の病態を感染学と免疫学の観点から説明できる（想起） 2. 疾患の原因を分子レベルで捉えようとする考え方をもち（態度・習慣） 3. 個体医療の概念と重要性を説明できる（想起） 4. 易感染性宿主とその歯科治療概念を説明できる（想起） 5. 口腔内疾患と全身疾患との関連性を説明できる（想起） 6. 論文等を適切に活用し，科学的な判断ができる（解釈） 7. 口腔内感染症を全身の健康と結びつけて考える姿勢を身に付ける（態度・習慣） 7. 先進的な診断・治療法や新しい研究成果の知識習得に積極性を示す（態度・習慣）
	1 4月 6日 口腔内科学の概説 口腔科学から隣接科学への貢献と影響 高柴教授 2 4月13日 特別講義（1-2限） 落合教授（日大・細菌学） 高柴教授 3 4月20日 特別講義（1-4限） 佐藤教授（日歯大新潟），高橋教授（奥羽大） 高柴教授

授業計画	4 4月27日 全身疾患の口腔への影響（4限のみ） 糖尿病外来 大森講師 5 5/8（月） 口腔疾患の全身への影響 これからの歯科医療が目指すべき方向性 山本講師 6 5月11日 病院内の歯科 易感染宿主や有病者との関わり 山城助教 7 5月18日 全身状態の口腔への影響（4限のみ） 妊婦外来 大森講師 8 5月25日 口腔内科学：試験 試験：「口腔内科学」をまとめる 高柴教授
授業時間外の学習（予習・復習）方法（成績評価への反映についても含む）	過去の講義資料の一部を事前に見ておくこと。以下のリンクからアクセス。パスワードは、ps6675。 <a href="http://www.cc.okayama-u.ac.jp/~perio/kogi3/oral_medicine/20050630oralmedicineBW.pdf">http://www.cc.okayama-u.ac.jp/~perio/kogi3/oral_medicine/20050630oralmedicineBW.pdf</a>
授業形態	(1)割合 講義形式：100%
使用メディア・機器	PowerPoint等を用いた視覚教材 学生はICT機器を用いて、資料収集（研究分野のHP等から）
教科書	過去の講義資料の一部を事前に見ておくこと。以下のリンクからアクセス。パスワードは、ps6675。 <a href="http://www.cc.okayama-u.ac.jp/~perio/kogi3/oral_medicine/20050630oralmedicineBW.pdf">http://www.cc.okayama-u.ac.jp/~perio/kogi3/oral_medicine/20050630oralmedicineBW.pdf</a> 選択すべき教科書群； 1. ペリオドンタルメディスン：Louis F.Rose, Robert J.Genco（編著），宮田隆（監訳），医歯薬出版，定価 10,500円 2. 歯周病と7つの病気－8つのnews：吉江弘正，高柴正悟（編著），永末書店，定価 8,000円＋税 3. 歯科医師・歯科衛生士のための唾液検査ハンドブック：鴨井久一，花田信弘（監修），ヒョーロン，定価 4,725円 4. 内科医に必要な口腔疾患の知識（日本臨床内科医会叢書），藤田浄秀（編集），定価 3,150円 5. 口腔内科学シークレット：島原政司，勝健一（監訳），メディカルサイエンスインターナショナル，定価 5,460円 6. 糖尿病患者に対する歯周治療ガイドライン（PDF： <a href="http://www.soc.nii.ac.jp/jsp2/pub/file/guideline_diabetes.pdf">http://www.soc.nii.ac.jp/jsp2/pub/file/guideline_diabetes.pdf</a> ） 7. 歯科医師とスタッフのための臨床検査 安全な口腔保健・医療に向けて：井上孝（編著），医歯薬出版，定価5,600円 8. 口腔医療に必要な臨床検査：井上孝，松坂賢一（著），デンタルダイヤモンド社，定価 4,400円 以下は，日本歯周病学会から（PDF入手可能が多い） 9. 糖尿病患者に対する歯周治療ガイドライン（ <a href="http://www.perio.jp/publication/upload_file/guideline_diabetes.pdf">http://www.perio.jp/publication/upload_file/guideline_diabetes.pdf</a> ）編集：特定非営利活動法人日本歯周病学会，医歯薬出版株式会社 10. 『歯周病学用語集 第2版』 Glossary of Periodontal Terms 2013（ <a href="http://www.perio.jp/publication/glossary.shtml">http://www.perio.jp/publication/glossary.shtml</a> ）特定非営利活動法人日本歯周病学会編，医歯薬出版株式会社，定価 3,150円
参考書等	講義中に適宜紹介する。本講座が作成した実習書を各論講義にも用いる。 講義の資料も配布する。また，必要に応じて図書館とInternetを利用して検索し，情報収集を行う。
成績評価	毎回講義内容とその感想をレポートにして提出してもらうことによって授業に対する姿勢とともに個人の知識や思考能力を評価する。また，講義内容に関する筆記試験（単に知識を求めるものではないことに注意）を行う。試験60点、レポート30点、出席10点
担当教員の研究活動との関連	歯周病と全身疾患の関連性についての研究を行っている。特に歯周炎と糖尿病の相互関係を分子生物学的に解明すること、ならびに歯周炎が易感染性宿主に与える影響について解析している。歯科におけるこの分野の重要性は近年急速に高まっており、研究内容は講義に取り入れている。
受講要件	歯学部生は必須
他学部学生の履修の可否	可
教職課程該当科目	この項目は当該科目には該当しない
J A B E E との関連	関連しない
備考／履修上の注意	実際の講義は，講座ならびに診療科の他のスタッフの協力を得て，それぞれのスタッフが得意とするトピックスについて講義することがある。

## DP要素

人間性に富む豊かな教養【教養】	20%
目的につながる専門性【専門性】	40%

効果的に活用できる情報力【情報力】	30%
時代と社会をリードする行動力【行動力】	
生涯に亘る自己実現力【自己実現力】	10%
関連割合の合計	100%

Copyright(c) 2001- NS Solutions Corporation All rights reserved.